

低価格の中国製品の「脅威」は元安がもたらしたもので、コスト減で対抗しても結局、さらなる円高を呼ぶだけだ。解決策は日本が必要創出を通じて円安を図ることであり、それを緊急に実現するには政策的に意味のある需要を作り出す必要がある。例えば環境規制の強化が有効だ。

### 中国の躍進 元安が主因

日米両国で中国脅威論が出て久しい。実際、中国経済の躍進はめざましく、一九九〇年から現在まで平均九%以上の成長を続けている。

その間、多くの日本企業が、低価格の中国製品に脅威を感じている。日本が不況から抜け出せないのはコスト高のせいであり、このままでは中国に負けて輸出が減り、景気がさらに後退して、日本はますます没落するといわなければならない。そのため、日本企業は生産性を大幅に改善し、また、品質を上げるべきだとも言う。



## 経済教室

しかし、中国企業の価格競争力は、企業努力よりも人民元の相場の変化による面が大きい。図を見ればわかるように、一九九四年以降現在までの円対ドル交換レートは、日本のバブル経済末期の一九八九年当時と比べて、実に三分の一近くにまで下がっている。つま

# 需要創出で円安を図れ

## 「中国の脅威」を解決 環境規制の強化が一法

小野 善康  
大阪大学教授



り、中国企業に対抗するに、生産性を三倍にしなければいけないのである。これでは、いくら効率が大きく上昇しているなら、元高になるはずである。ところが現実には、中国が政策的に元を大幅に引き下げ、それで大躍進を遂げたのである。

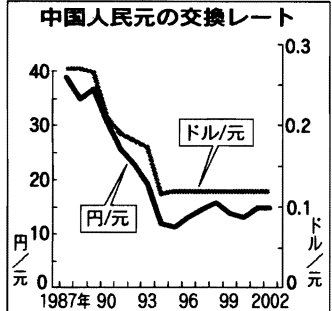
しかし、原因はいろいろある。個々の日本企業の立派な競争力以前より高まる。そのため、コスト削減しかない。そのとき、一社だけが努力して他社は何もしない高調整で輸出も減ってしまうのである。

円を大幅安の水準に固定すればいいのである。しかし、そんなことをすれば世界中から非難され、各国の通貨切り下げ競争や経済ブロック化による世界的な貿易の収縮という、第一次世界大戦後の最悪の経験を繰り返しかねない。日本のような貿易立国には到底許されな

る。この易立国には到底許されなうして、再び国際競争力を失う。新たな需要、特に国内需要を刺激する物から、円高による国際競争力の低下もない。しかし、人々に物を買

う。企業に新需要を生む物を作れと言っても、簡単にできるものではない。そのため、政策的に需要を作るしかない。それには公共事業もあるが、意味のある規模による新需要創出という方法もある。環境規制が好例である。

おの・よしやす 51年生まれ。東京大院修了、経済学博士。専門はマクロ動学・国際経済学



中国人民元の交換レート  
ドル/元  
円/元  
1987年 90 93 96 99 2002

ら、過剰増える。それが経常収支を悪化させるから、日本経済は負けたと思われ、円安が進む。これが日本企業の競争力を回復させる。生産効率が上昇しなくても、需要増大で競争力が高まるのである。

人々に物を買ってもらうには、企業が購買意欲をそそぐ製品を開発すればよい。なお、単に外国製品に品質で対抗するだけでは、これまでにない需要を生み出すことは本質的に違う。品質が高いだけの代替品なら、需要の全体規模は変わらずに

環境が改善するからである。効果はそれだけではない。環境規制が大きな新規市場を生み出す。たとえば、現行の「環境JIS（日本工業規格）」で全製品を回収可能にする規格を設定し、履行を義務付ければ、各種容器や車、電気製品など部品市場にばく大な需要が生まれる。さらに廃棄物をかければ、省エネ製品に大きなビジネスチャンスが生まれ、投資も雇用も増える。東京都のディーゼル車規制が、大きなトラック需要を生んだのと同じである。

これらは国内景気を刺激して輸入を増やすから、円安が大きく進み、